

2012

CSR報告ダイジェスト

アンリツ株式会社
www.anritsu.com/csr

 **CSR**
CSR Report Digest



Anritsu

目次

会社概要	01
事業概要	03
トップコミットメント	05
アンリツの成長と GLP2014	07
ステークホルダーダイアログ	09
達成像 1 安全・安心で快適な社会構築への貢献	11
達成像 2 グローバル経済社会との調和	13
達成像 3 地球環境保護の推進	15
達成像 4 コミュニケーションの推進	17
2011 年度の実績と 2012 年度の目標 第三者意見 / 第三者意見を受けて	18

編集方針

2011 年度の活動は「CSR 報告 2012」としてウェブサイト上で詳細を掲載し、ダイジェスト版として冊子を発行し報告しています。ダイジェスト版では、『アンリツ CSR 活動のあるべき姿（達成像）』ごとに、特にお伝えしたい活動について分かりやすく報告することを基本としました。ウェブサイトでは重要性測定により導き出された 12 の重要課題を達成像ごとに整理し、それぞれの具体的な活動状況を掲載することで、より多くのステークホルダーの皆さまにお伝えすることに努めました。

アンリツの CSR 活動報告の詳細は、下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/CSR/>

※ 財務面の詳細については、ウェブサイト <http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/Investor-Relations/> またはアニュアルレポートをご参照ください。

[参考にしたガイドラインなど]
・ ISO 26000:2010

活動報告対象期間

2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日
(一部には、対象期間前後の活動内容も含まれます。)

活動報告対象組織

報告内容については、項目によりアンリツ(株)のみの場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。以下のルールで区別しています。

- ・「アンリツ」または「アンリツグループ」
記事内容がアンリツ(株)およびグループ会社全体的場合
- ・「アンリツ(株)」
記事内容がアンリツ(株)単体の場合
- ・「グループ会社」
記事内容がグループ会社またはその一部の場合

発行日：2012 年 8 月 1 日
お問先：アンリツ(株) コーポレートコミュニケーション部
CSR 推進チーム
TEL：046-296-6514
FAX：046-225-8358
URL：http://www.anritsu.com
(次回は 2013 年 7 月に発行予定です。)

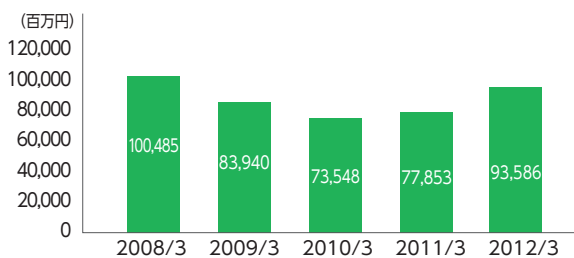
会社概要

本社所在地：神奈川県厚木市恩名 5-1-1
創業：1895 年
資本金：171 億 5 百万円*1
売上高：935 億 86 百万円*2
株主数：12,661 名*1
社員数：3,681 名(連結)*1
824 名(単独)*1
取引先社数：829 社*3

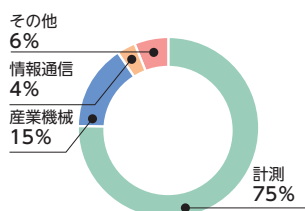


*1：2012 年 3 月 31 日現在 *2：連結：2012 年 3 月期 *3：2012 年 7 月 12 日現在

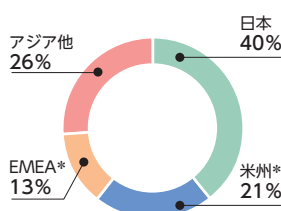
売上高



事業別連結売上高比率 (2012 年 3 月期)

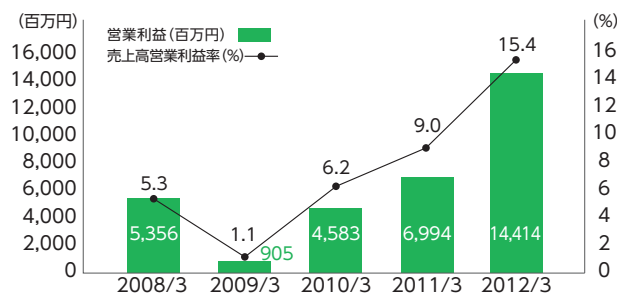


地域別連結売上高比率 (2012 年 3 月期)

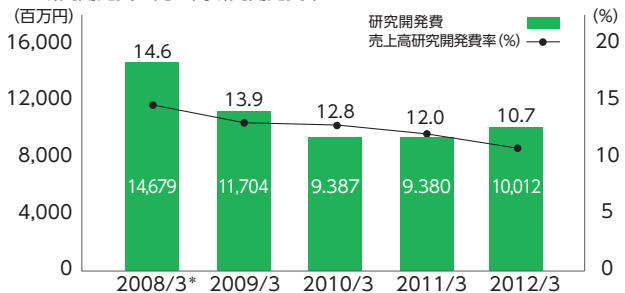


* EMEA：Europe, the Middle East and Africa の略。
欧州・中近東・アフリカを表す。
* 米州：アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジルを表す。

営業利益 / 売上高営業利益率

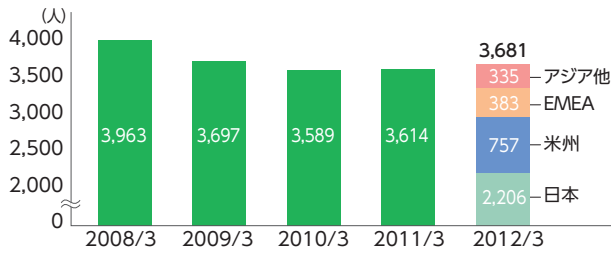


研究開発費 / 売上高研究開発費率



* 2008/3 月期の研究開発費には、海外子会社の試験研究資産の一時償却分を含む。

■ 社員数 (アンリツグループ)



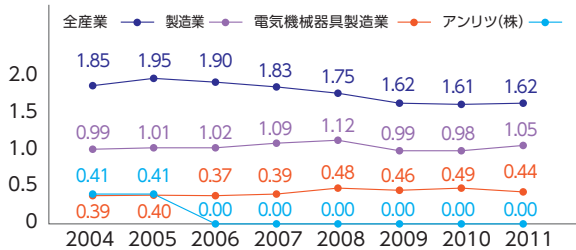
■ グローバルにみた女性の活躍状況 (2012年1月末現在)

	日本	米州	EMEA	アジア他	グローバル計
全社員に占める女性社員の比率 (女性社員数÷全社員数)	14%	31%	26%	27%	23%
男性を100とした女性の幹部職登用率 (女性幹部職数÷女性社員数)÷ (男性幹部職数÷男性社員数)	14%	59%	60%	54%	48%

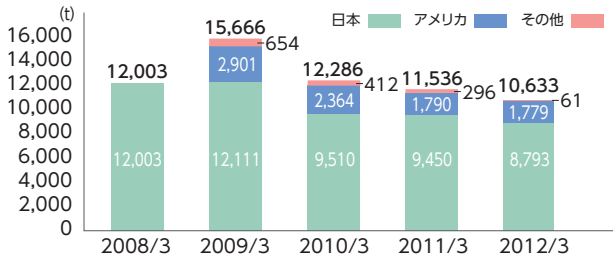
■ 社員データ (国内グループ会社)

	2009年度	2010年度	2011年度
社員数(国内グループ計)	2,274	2,240	2,206
男性	1,988	1,952	1,927
女性	286	288	279
外国籍	25	20	16
非正規雇用	305	376	463
平均年齢	40.9	40.3	41.5
平均勤続年数	18.1	18.5	18.6
アンリツ単体 障がい者雇用率(%)	1.76	1.98	2.25
アンリツ国内連結 障がい者雇用率(%)	1.37	1.50	1.56
法定雇用率(参考)	1.80	1.80	1.80

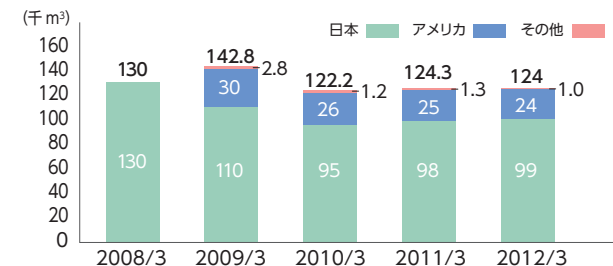
■ 労働災害発生状況



■ CO₂ 排出量



■ 水使用量



主要国内グループ会社

- アンリツ産機システム株式会社
産業機械の開発・製造・販売・修理・保守・サービス
- 東北アンリツ株式会社
計測器・情報通信機器の製造
- アンリツ計測器カスタムサービス株式会社
計測器の校正・修理・保守・EMC/HALT 試験
- アンリツエンジニアリング株式会社
ソフトウェア・ハードウェアの開発
- アンリツネットワークス株式会社
情報通信製品の開発・販売・システム設計・保守・サービス
- アンリツデバイス株式会社
光デバイスの開発・製造・販売
- アンリツ興産株式会社
計測器のリセール・リサイクル・デザイン・ドキュメントなどの制作
- アンリツ不動産株式会社
不動産の賃貸
- 株式会社アンリツプロアソシエ
経理財務・給与計算・福利厚生に関する
シェアードサービスセンター業務
- AT テクマック株式会社
切削・板金部品・ユニット組立品の製造・販売

主要海外グループ会社

米州

- Anritsu U.S. Holding, Inc. (U.S.A.)
- Anritsu Company (U.S.A.)
- Anritsu Instruments Company (U.S.A.)
- Anritsu Industrial Solutions U.S.A. Inc. (U.S.A.)
- Anritsu Electronics Ltd. (Canada)
- Anritsu Eletronica Ltda. (Brazil)
- Anritsu Company S.A. de C.V. (Mexico)

EMEA

- Anritsu EMEA Ltd. (U.K.)
- Anritsu Ltd. (U.K.)
- Anritsu Industrial Solutions Europe Ltd. (U.K.)
- Anritsu GmbH (Germany)
- Anritsu S.A. (France)
- Anritsu S.r.l. (Italy)
- Anritsu Solutions S.r.l. (Italy)
- Anritsu A/S (Denmark)
- Anritsu AB (Sweden)
- Anritsu Solutions S.R.L. (Romania)

アジア他

- Anritsu Company Ltd. (China)
- Anritsu Electronics (Shanghai) Co., Ltd. (China)
- Anritsu (China) Co., Ltd.
- Anritsu Industrial Solutions (Shanghai) Co., Ltd. (China)
- Anritsu Company, Inc. (Taiwan)
- Anritsu Corporation, Ltd. (Korea)
- Anritsu Pte. Ltd. (Singapore)
- Anritsu Industrial Solutions (Thailand) Co., Ltd. (Thailand)
- Anritsu Pty. Ltd. (Australia)

毎日の生活につながるアンリツグループ

あなたの暮らしをより便利に、快適に。

— モバイル/ワイヤレスの情報通信サービスを支える、計測ソリューション —

通話/メール



携帯電話の通信品質

写真/動画



大容量データの送受信

音楽



高速ダウンロード

インターネット



無線LANの通信品質

ナビゲーション



リアルタイムな交通案内

ゲーム/SNS



遊ぶ、学ぶ、つながる

アンリツが提供するソリューション

暮らしのイン

— ブロードバンドネットワークを

携帯電話基地局



基地局のエリア確認

光ファイバー



断線箇所を特定

つなげる - みまもる - みつける。

アンリツは、情報通信・映像監視・食品・医薬品などのさまざまな分野で、皆さまの暮らしやビジネスを支え、安全・安心で快適な社会づくりに貢献しています。

あなたの暮らしに安心を。

— 食の安全、災害監視、眼病検査などで暮らしを支える、各種ソリューション —



—— ヨンで安全・安心な社会へ ——

フラを支える。

支える、計測ソリューション —



本業を通じた社会価値の提供こそ、 アンリツらしい CSR経営の実践



経営ビジョンに引き継がれる アンリツのDNA

アンリツグループにとっての1990年代からの20年間は、企業存続のために多くのエネルギーを割かなければならない厳しい時代でした。とりわけ2000年代の、ITバブルの崩壊、リーマンショックなどの大きな環境の変化の前に、会社の存続も危うい経営状況を経験しました。

一方でアンリツグループは、研究開発投資や企業買収など積極的な経営施策も同時に展開してきました。どんなに辛い時でも、アンリツの存在価値を失わないために前向きに投資する努力こそ、私たちのDNAです。それはアンリツらしさを失わないための最低限の企業努力です。このアンリツの粘りと強みをさらに社会の向上発展に生かすために、私たちはもっともっと足腰を強くしなくてはなりません。

私は2010年の社長就任と同時に、その想いを組織全員の共通の想いにすべく、経営ビジョン「利益ある持続的成長を目指す」を打ち出しました。さらにそれを発展させて、2020年までに到達したい姿を「Anritsu 2020 VISION」として描き、その実現に向けて新たな第一歩を踏み出しました。

安全・安心な社会の実現に 社業を通じて貢献する

東日本大震災から1年余が過ぎました。アンリツグループは自らの本業を生かして被災地の復旧、復興をサポートしてきました。

通信インフラの復旧に欠かせない計測器や地元の水産業の復興に必要な産業機器の修理や代替品の提供はもとより、今なお原発被害に苦しむ福島県郡山市では、PTAの皆さまの不安を払拭し適切な行動をとっていただくための放射能勉強会などの開催にも努めました。さらに昨年9月の大きな被害をもたらした台風12号の襲来時には、不眠不休で水道設備の遠隔監視システムの復旧にもあたりました。

アンリツグループは、災害多発国の企業として、安全・安心な社会の実現に、より強い社会的使命感を持つものです。



またその事業を担う社員も社会貢献を誇りとしています。東北地方の復興には、まだまだ多くの時間と社会支援が必要です。アンリツは被災地の皆さまに寄り添い、アンリツらしさで復興を支援してまいります。

117年が証明する誠実な企業活動

本2012年は、情報通信業界において記念碑的な年となります。世界初の実用無線電話機であるTYK式無線電話機が発明されてから100年の節目にあたるからです。「元祖ケータイ」と称されるTYK式無線電話機は、アンリツの前身、安中電機製作所によって製作されました。

以来、当社は一貫して情報通信のフィールドで事業を展開し、計測事業をはじめ、重量選別、異物検出、帯域制御、光デバイスなど、さまざまな事業へと発展させています。創業当初からすると、アンリツグループの事業は様変わりです。

しかし、その根底には、経営理念で掲げる「誠と和と意欲」、「オリジナル&ハイレベル」を一貫して誠実に、紡ぎ、繋ぎ、宿し、磨いてきたからこそ、117年の歴史を刻むことができたと確信します。

本業にこだわる。これこそがアンリツが信条とするCSR経営

「本業を通じた社会貢献」。これは、私のCSR経営における変わらぬ信条です。現在、情報通信業界では、スマートフォン・タブレット端末の急激な普及に伴う、モバイルデータトラフィックの急増への対処が課題となっています。

また、国内では東日本大震災からの復興、災害に強い国づくりが急務であることに加え、環境・エネルギー問題、高齢化社会、医療・教育格差などが国際社会共通の課題となっています。情報通信技術を核に、さまざまな社会・公共システムがシームレスにつながり、「より賢く」、「より機敏に」そして、「より人と環境に調和したものへ」と進化してこそ、こうした課題や矛盾の克服が可能となるのではないのでしょうか。

情報通信ネットワークや食品・医薬品の品質保証技術、遠隔監視技術などを有する企業集団として、いかに振る舞うか。その判断の機軸は、社会に役立つか、否かです。アンリツグループはこれからも、コア・コンピタンスの先進性を高め、適応力を磨き、より良い社会づくりの輪に加わってまいります。

2012年8月

アンリツ株式会社 代表取締役社長

橋本 裕一

経営理念・経営ビジョン・経営方針

アンリツは、経営理念、経営ビジョン、経営方針が掲げる基本原則を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示す国連グローバル・コンパクト、および具体的な価値観・行動指針を示すアンリツグループ企業行動憲章を守ることを通して、CSR活動を推進しています。

◆ 経営理念	誠と和と意欲をもって、「オリジナル&ハイレベル」な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する
◆ 経営ビジョン	衆知を集めたイノベーションで「利益ある持続的成長」を実現する マーケット・ドリブンとカスタマー・フォーカスによるイノベーション活動で、グローバルなマーケットリーダーになる
◆ 経営方針	1. 衆知を集めた全員経営でハツラツとした組織へ 2. イノベーションで成長ドライバーの獲得 3. グローバル市場でマーケットリーダーになる 4. 良き企業市民として人と地球にやさしい社会づくりに貢献

2020VISION



アンリツは、国連グローバル・コンパクトの活動に賛同し、2006年3月に参加しました。



This is our Communication on Progress in implementing the principles of the United Nations Global Compact. We welcome feedback on its contents.

国連グローバル・コンパクト (United Nations Global Compact)

※国連グローバル・コンパクト：人権、労働基準、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・アナン前国連事務総長が提唱し、2000年7月、ニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

アンリツの成長戦略と連動した取り組みで 達成像の実現へ

アンリツグループは、経営理念である「誠と和と意欲をもって、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する」のもと、事業を通じて社会の持続的成長の実現に向けた取り組みを行っています。



「2020VISION」に向けた GLP2014

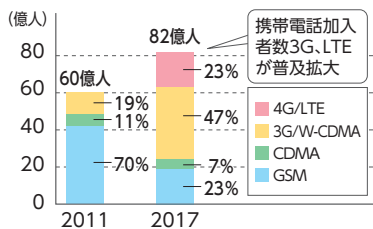
アンリツは今、「2020VISION」の達成に向け、全社をあげて活動しています。経営ビジョンである「衆知を集めたイノベーションで“利益ある持続的成長”を実現する」を軸とし、110年を超える歴史を通じて蓄積してきたオリジナル&ハイレベルな技術、グローバルなサポート力をさらに磨き、アンリツらしい有形・無形の企業価値を創造していきます。

この「2020VISION」のマイルストーンとなる次期中期経営計画として、GLP2014を発表しました。

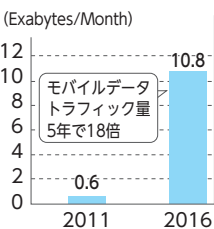
スマートフォン・タブレット端末の加速度的な普及に伴い、通信トラフィックは今後5年で18倍に増大すると試算されており、マーケットは年率3～5%で成長すると見込まれていますが、主力の計測事業のGLP2014では、それを超える年7%以上の売上成長率を目指します。

成長ドライバーは「モバイル・ブロードバンド・サービス」の益々の発展と普及であり、アジア市場を軸に競争力の強化に努めます。この大きなトレンドのもと、既存のソリューションの進化に加え、計測事業以外の分野においても、アンリツグループのコア・コンピタンスと先進性を生かした事業創発に取り組めます。

■ 世界の携帯電話加入者予測 (出所：シード・プランニング)



■ 世界のモバイル データトラフィック (出所：シスコ)



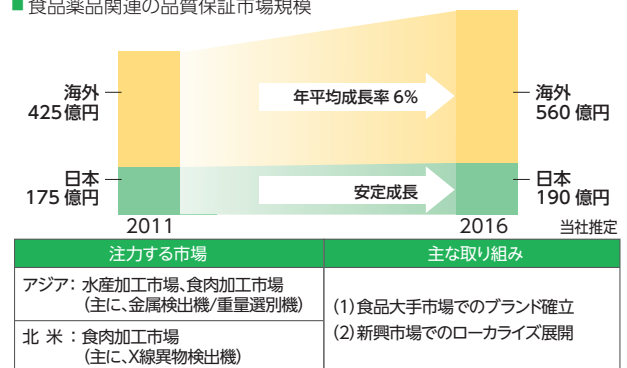
また産業機械事業では、先進の日本市場で築いたトップサプライヤーとしての地位を生かし、アジアおよび北米市場での存在感を増すことで、年7%以上の売上成長率を目指します。

GLP2014

指標	FY2012	FY2014
売上高	945億円	1,100億円
営業利益	155億円	190億円
当期純利益	100億円	130億円
ROE	20%	20%
ACE*	70億円	90億円

* ACE : Anritsu Capital-cost Evaluation 税引後営業利益-資本コスト

■ 食品薬品関連の品質保証市場規模

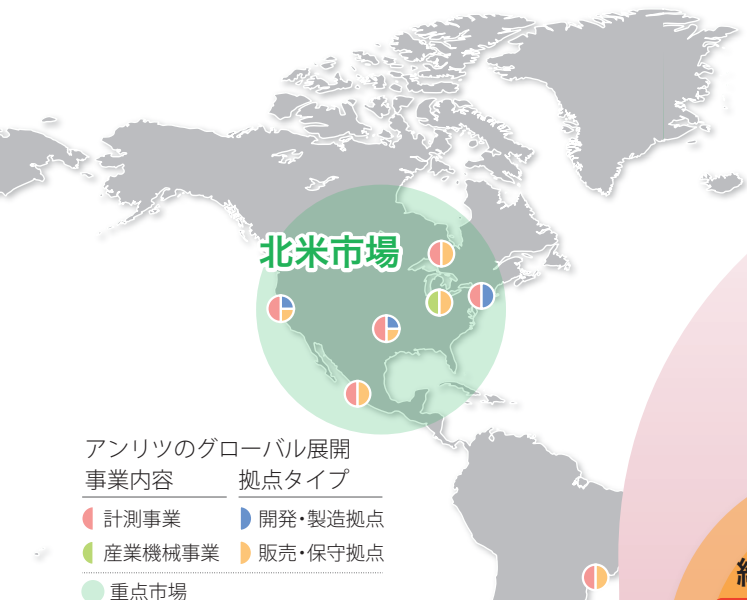


注力する市場	主な取り組み
アジア: 水産加工市場、食肉加工市場 (主に、金属検出機/重量選別機)	(1) 食品大手市場でのブランド確立 (2) 新興市場でのローカライズ展開
北米: 食肉加工市場 (主に、X線異物検出機)	

事業戦略と連動したグローバル CSR

これらの事業を推進するにあたっては、アンリツグループの経営理念、経営ビジョン、経営方針が掲げる基本指針を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示す国連グローバル・コンパクト、および企業の行動理念を示すアンリツグループ企業行動憲章の実践を通して、社会的責任を果たしてまいります。アンリツグループは、2006年に自らの将来における、あるべき姿を4つの達成像として設定しました。事業のグローバル展開に連動したCSR経営の基盤をつくりグローバル・マーケットリーダーを目指します。

アンリツのCSR達成像



北米市場

2020VISION

1 Global Market Leaderになる

- ・ワールドクラスの強靱な利益体質の実現
- ・アンリツらしい企業価値の創造

2 事業創発で新事業を生み出す

- ・新しい分野でアンリツの先進性を発揮

達成像1

安全・安心で快適な
社会構築への貢献

お客さまへのサービス

企業ブランドの確立
社会的課題への積極的対応

達成像2

グローバル
経済社会との調和

サプライチェーンマネジメント

人権の尊重と多様性の推進

人材育成

コンプライアンスの定着
リスクマネジメントの推進
労働安全衛生
社会貢献活動の推進

達成像3

地球環境保護の推進

環境経営の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

ステークホルダーとのコミュニケーション

：2011年度に推進した重要課題

達成像 1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

アンリツの姿	アンリツは、オリジナル&ハイレベルな技術によって、皆さまの安全と安心を守るために貢献している。
社員の姿	社員一人ひとりが、お客さまの声を聞き、市場の期待を上回る品質の商品・サービスと迅速なサポートを提供している。
社会からの評価	そして、アンリツの技術に対する一定の評価をいただきつづけ、アンリツブランドの信頼を築いている。

達成像 2

グローバル経済社会との調和

アンリツの姿	アンリツは、グローバル展開において、各地域の文化や特性と調和した事業活動を行い、サプライチェーン全体で社会的責任を果たしている。
社員の姿	社員一人ひとりが、コンプライアンスを意識し人権を尊重し、多様な属性・文化・価値観のもとで活き活きと働き、成長している。
社会からの評価	そして、地域に密着した社会貢献活動により、地域・社会との信頼関係を構築している。

達成像 3

地球環境保護の推進

アンリツの姿	アンリツは、環境理念のもと、製品ライフサイクル全体を通じて、地球温暖化防止、循環型社会の形成、地球のグリーン化に取り組む環境経営が定着している。
社員の姿	社員一人ひとりが、エコマインドを高め、自身の業務に密着した環境活動を自立して実践している。
社会からの評価	そして、グローバル環境経営を推進し、地球環境保護に積極的に貢献する企業として社会から認知されている。

達成像 4

コミュニケーションの推進

アンリツの姿	アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、パートナーシップを構築している。
社員の姿	社員一人ひとりが、ステークホルダーからの期待に耳を傾け、積極的なコミュニケーションを行い、相互理解を醸成している。
社会からの評価	そして、ステークホルダーに対してアンリツの姿を正しく伝え、アンリツに対する評価と信頼を築いている。

グローバル展開する アンリツグループに期待するCSR

アンリツでは「コミュニケーションの推進」を4つの達成像の一つとして重要視し、CSR経営の全体を支える基本的な姿勢と位置づけています。これまでにアンリツグループとかかわりのある有識者3名にご参集いただき、中期経営計画「GLP2014」を踏まえたこれからのアンリツに期待するCSRを検討しました。

(2012年5月22日開催 文中敬称略)

ブレないポリシーステートメントで CSRビジョンを示し、 プロセスに落とし込む

土肥：アンリツのCSR経営は「五方よし」を根幹としながら、自らの将来におけるあるべき姿である4つの達成像を目指して取り組みを進めてきました。今年度策定した中期経営計画GLP2014では、2020VISIONである「グローバル・マーケットリーダーになる」および「事業創発で新事業を生み出す」の達成に向かう過程として、市場成長率を超える売上7%以上、営業利益率20%以上の成長を目指してグローバル、特にアジアへの事業展開を打ち出しました。本日はこのGLP2014を踏まえ、これからのアンリツのCSRへの期待や課題をおうかがいしたいと思います。



経済人コーポ円卓会議日本委員会
ディレクター

山口俊宗様

2007～2008年に12の重要課題を抽出した重要性測定でアンリツをご支援いただきました。

山口：モバイル通信分野で最先端技術を持つ優位性を生かして、国際標準規格の策定段階から入り込む勝ちパターンは日本企業でも珍しいものです。

その大きな成果としてのGLP2012の前倒し達成を含む好業績と理解しています。まさにイ

ノベーションが成功の源泉と言えるでしょう。今後のCSRにおいてはサステナビリティを意識したビジョンを示し、このビジョンをプロセスに落とし込むことを期待します。これまでの「お客さまニーズの追求」だけではなく、多様な価値観を前提とした社会的課題解決の観点が求められます。その意味では、「お客さまの役に立つ」イコール「サステナビリティ」ではないということが言えるでしょう。

後藤：アンリツのCSRを説明する言葉の中で「サステナビリティ」はじめ、「イノベーション」「グローバル化」など社内ですら十分に消化されていない言葉もあるような印象を受けています。アンリツ社内ですっきりと議論し、定義を固め、社内外に向けてブレのないメッセージの発信を行っていくことが必要です。それが、活動としての「サステナビリティ」「イノベーション」につながると考えます。

川辺：イノベーションはアンリツの経営ビジョンにも経営方針にも含まれる言葉であり、さまざまな局面で起こり得るものです。高速データ通信のない社会インフラは考えられない現代において、アンリツの持つコア・コンピタンスからの発想と、医療や教育



アンリツ株式会社
執行役員 経営企画室長
川辺 哲雄

などのメガトレンドからのアプローチを軸に、2020VISIONで掲げた「事業創発で新事業を開拓する」という目標にチャレンジします。

赤羽：今後、アジアでの携帯電話の第2世代から第3世代への移行においてアンリツの存在感が増してくると思います。販売拠点だけではなく、タイには産業機械の工場もあります。CSRアジアの調査では、日本企業だけではなく各社で人権や人材育成において悩みが多いことが分かっています。歴史的な背景により、多様性の問題に対応してきた中国やマレーシアでは柔軟な思考回路を持つ人財が豊富ではあるものの、これらの国でも人権は大きな課題となっています。アンリツにおいてもポリシーステート

メントを明確に示し、これを各国に展開しながら、ローカルへの権限移譲を上手く進めて欲しいと考えます。



CSRアジア 東京事務所
日本代表

赤羽 真紀子様

外部の勉強会の機会を通じて、最近のアンリツCSR活動へのコメントをいただきました。



ファシリテーター：サステナビリティ会計事務所 福島隆史



<http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/CSR/dialog/index.aspx>

権限移譲しながらローカルの課題を把握し、グローバルに判断する

後藤：類似する議論として、コンプライアンスや労働安全衛生などは会社単位で行う課題とされ、海外グループ会社まで含めてグループ・グローバルに管理されているケースは少ないのが実態です。それに対して、アンリツのグローバル対応ではグループ企業行動憲章と各国の行動規範を網羅した行動規範（Code of Conduct）の策定などが進んでおり、この点を評価したいと思っています。海外の優良企業と比較すると弱いかも知れませんが、日本的な経営スタイルの良さも保ちながら、グローバル化の成功モデルを作りたいと考えています。



株式会社アイディアシップ
後藤 大介様

2007年までの3年間、達成像の策定や情報開示のあり方をご支援いただきました。

谷合：アンリツの海外グループ会社では現地の人財がトップを担っています。グループ・グローバルの本社として、行動規範のさらなる浸透と統制が今後の課題と考えています。そのための体制づくりを継続して進めていきます。



アンリツ株式会社
取締役 執行役員 環境総括
谷合 俊澄

山口：そのためにも、各地域でCSRの観点で何が課題なのかをしっかりと把握していただきたいと考えます。ただ、品質管理のような高い精度は必要なく、リスクマネジメントの手法で優先度を判断するべきでしょう。その点、環境についてはグローバルでのコンセンサスが進んでおり、アンリツの取り組みも評価が高いと言えます。将来的なリスクとして、水と生態系への依存度合いも注視した方が良いでしょう。

赤羽：厚木地区での自主的な土壌調査で確認された土壌汚染の情報がHPで開示されていました。こういったネガティブ情報のタイムリーな開示はとても素晴らしいものです。環境のKPIとして、研究開発費に占めるエコプロダクツの割合、1人あたり

の研修時間などを開示すると良いでしょう。企業のエコプロダクツや人財に対する本気度が見えてきます。また、代替エネルギーの使用についても注目が高まっています。

山口：今、企業にはさまざまな指標での情報開示が求められています。それらの情報でステークホルダーが企業を評価します。アンリツのCSR 経営の根幹にある「五方よし」の「よし」は、今やステークホルダーが判断するのです。

土肥：今日は貴重な意見をたくさんいただき、ありがとうございました。GLP2014と関連したCSRの中期経営計画を策定しており、事業計画に沿った課題を取り上げ活動を推進します。今日いただいたご意見を参考に今後の施策を検討していきます。



アンリツ株式会社
CSR推進チーム 部長
土肥 正彦

安全・安心で快適な社会構築への貢献

アンリツは、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスによって皆さまの安全と安心を守り、事業活動を通じて社会的な課題へ積極的に対応します。



執行役員 グローバル営業総括
永田 修

感動を提供し、安全・安心で快適なつながる社会を支援

米州、EMEA、アジアに展開する19の現地法人を通じ、お客さまからの期待を超える「感動」をお届けすることがグローバル営業統括としての私のミッションです。コミュニケーションの幅が広がり、個人と世界がダイレクトかつリアルタイムにつながる現代において、アンリツの計測事業ではより早くクリアで安全な通信環境を支える、オリジナリティのあるハイレベルな商品やサービスを提供しています。

これと並行して、お客さまからの将来の期待や夢をお聞きし商品開発に生かすよう、マーケティング、開発部門などに生の声を届け、イノベーションを喚起しています。50年後の未来を想像し夢を実現するには、毎日の業務にイノベーションを意識して取り組む姿勢が大切です。グローバル化がさらに進み、宇宙におけるあるべき通信の姿を描く日もそう遠くはありません。引き続き、「つながる」という側面から、より魅力的で持続可能な社会の実現に貢献していきます。



「お客さまの役に立つ」イコール「サステナビリティ」ではありません。アンリツには、先進性あるイノベーションで、社会的課題の解決に貢献することを期待します。

経済人コー円卓会議日本委員会 ディレクター 山口 俊宗様

LTE 計測ソリューションにより、急増するモバイルデータトラフィック問題の解決を支援

スマートフォン・タブレット端末の登場により、いつでもどこでも、映像・動画などのリッチコンテンツを利用できる時代になりました。その一方、社会的課題として急浮上しているのが、モバイルデータトラフィックの急増による回線容量の逼迫です。この解決策となっているのが、高速移動通信システム LTE の導入です。LTE 端末の商用化では、プラット

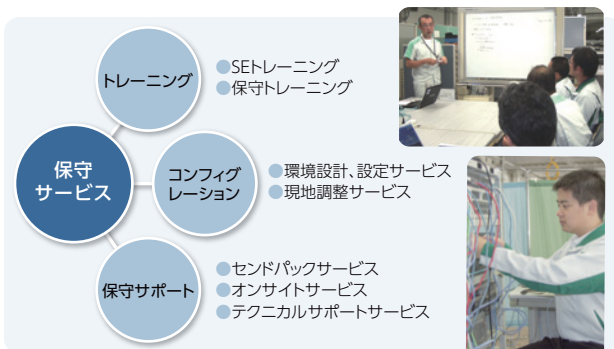
フォーム開発から規格適合性検証、異なる通信方式間の相互接続性検証、事業者受入検証、量産と各ステップで計測器が使用されます。アンリツは、これら一連のテストサイクルに加え LTE ネットワークの建設・保守、サービス品質の保証までカバーした計測ソリューションを提供し、快適につながるモバイル・ブロードバンド・サービスの実現を支えています。

■ 快適につながるモバイルコミュニケーションを支えるアンリツ



さまざまなテクニカルサポート

アンリツネットワークス(株)では、製品の納入設置から機器システムの取り扱い、および修理にいたるまで、さまざまなテクニカルサポートをお客さまに提供します。テクニカルサポートの窓口では、あらゆる機器に関するメールや電話による問い合わせに対して、1 営業日以内の回答を実施しています。機器やシステムの持てる機能を十分に発揮させ、お客さまの業務を支えることを念頭におき、活動しています。



東北地方の水産業復興を支援

アンリツ産機システム(株)は、従来から東北地方の水産業界に鮮魚用の重量選別機や加工品用の異物検出機などを提供しており、多数利用されています。そこで、アンリツ産機システム(株)では、東北地方の水産事業者への優先納入や被災した製品の修理支援、生産ラインの復旧支援、製品の無料貸し出しなどを実施しています。

水産業は東日本大震災からの復興のシンボルとなっています。今後もアンリツ産機システム(株)は、お客さま視点に立った活動を継続し、水産業の復興・発展を支援してまいります。

■ アンリツ産機システムの支援活動事例

無料故障診断	津波の被災地区向けに無料故障診断チームを編成し、60社を超える水産業者さま、食品メーカーさまに巡回訪問サポートを実施。
製品引き取り・保管	被災したX線異物検出機、金属検出機など約80台および計量機の引き取りや保管代行を実施。
生産ライン構築支援	被災したお客さまに生産ライン構築業者を紹介し、早期復旧支援を実施。
デモ機無料貸し出し	発注製品が納品されるまでデモ機を貸し出し、生産ラインを復旧。

グローバル経済社会との調和

アンリツは、誠実な企業であるための基盤を強化し、社員の人權の尊重と多様性に配慮した働きやすい職場を整備するとともに、サプライチェーンや地域・社会との信頼関係を構築します。



執行役員 SCM 本部長 郡山事業所長
服部 司

グローバルSCMでのCSR推進

サプライチェーンの統括が私の担当です。郡山事業所は計測器を中心としたアンリツグループの最大生産拠点です。取引先さまは世界全体に広がるため、当社の調達担当もグローバルに配置されています。取引先さまへは強いパートナーシップを構築するために、「資材調達基本方針」および「お願い事項」を定めて協力をお願いしています。品質やコストだけではなく人權、コンプライアンス、労働安全衛生や環境の監査項目を含むチェックリストで取引先さまを訪問した監査を行っています。その評価結果に基づき、取引を見直すケースもあります。

また昨年の東日本大震災の教訓を受け、今まで実施してきたBCPを基に、よりスピーディーな情報収集と意思決定を行うために、現場に合わせた実践的なBCPへと内容を修正しました。例えば、異常事態発生時に各担当がやるべきことがわかるように、緊急時の行動を明文化し、防災ヘルメットとともにいつでも携帯できるようにしてあります。

今後も不慮の事故や災害時においても事業を継続し、サプライチェーン全体で高品質な製品を確実にお届けできるよう体制を強化していきます。



アジアの経営者 77 人へのアンケートでも「人權」と「サプライチェーン」が悩み。取引先を訪問しての地道な活動が重要です。

CSR アジア東京事務所 日本代表 赤羽 真紀子様

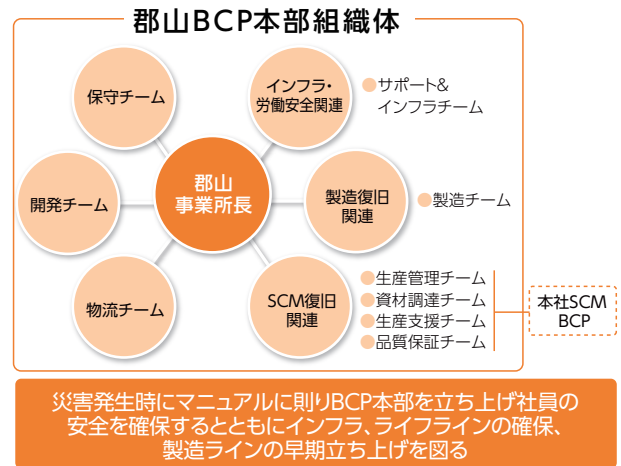
BCP*の根幹となる部品生産資材の安定調達に向けて

ものづくり企業にとって、生産資材の安定調達はBCPの根幹です。当社グループの製造拠点である東北アンリツ・郡山事業所では、東日本大震災前から重要なリスクの一つとして、地震などの自然災害を想定し、実際に発生した場合のBCPを策定しています。このBCPでは、震災発生後になすべきことを具体的にプロセスごとに明確化しています。

また、取引先さまの拠点状況をデータベース化し、災害発生直後からリスクの特定と最小化を図り、さらにこれらの情報を社内でも共有できるしくみも構築しています。さらに、あらゆるリスクに対応するため、新燃岳噴火・中東情勢不安などでトライアルを行い、そこで得た経験を加味するなど、改善・強化に努めています。

東日本大震災ではこうした取り組みが生き、生産ライン復旧後も生産資材供給を途絶させることなく、生産を継続しました。今後もリスクマネジメントを調達の最重要業務に位置

づけ、東日本大震災で学んだ教訓を踏まえ、さらにBCPの改善を進めていきます。



* BCP : Business Continuity Plan 事業継続計画

CSR 調達アンケートの実施

2011年度は計測事業で当社が購入している主な取引先さま77社に対し、CSR調達アンケートを実施し約85%の66社から回答をいただきました。他の取引先さま440社に対してもCSR調達の推進に対して協力いただくことをお願いし、約86%の取引先さまより「同意書」をいただいています。

アンケートの結果は、購入品種により回答に偏りがありましたが、全体的に「社会貢献」と「地域への貢献」が低めの水準である一方、「環境への影響の最小化」「資源・エネルギーの有効活用」などの環境に関する項目においては点数が高く、環境への意識が高まっていることがわかりました。これは10年以上にわたり取引先さまとグリーン調達に取り組んできた成果だと考えています。

このアンケート結果を元に今後もパートナー企業としてより良い職場環境作りを支援し、公平・公正で健全なCSR調達がなされるよう取引先さまとの信頼関係を築いていきます。

教育・研修体系に基づくグローバル人材育成

国内アンリツグループでは共通の教育・研修体系を採用し、グループ社員全体のレベルアップを図っています。

今後さらに重要となるアジア市場を見据え、英語だけでなく中国語などの英語以外の語学研修や異文化を理解するための研修など、グローバル人材育成に關する教育研修に力を入れていきます。



中国語会話

基幹人材育成	職種別専門教育	その他
マネージャー <ul style="list-style-type: none"> Global Leader Development Program マネジメント研修 新任マネージャー研修 	技術者教育 <ul style="list-style-type: none"> 電気・電子 ●光技術 信号処理 ●FPGA 通信・ネットワーク プロジェクトマネジメント 生産・品質 プロセス改善 知的財産 	自己啓発支援 <ul style="list-style-type: none"> 通信教育 E-Learning 外国語会話
中堅・リーダー <ul style="list-style-type: none"> マネージャー養成研修 リーダー研修 	営業教育 <ul style="list-style-type: none"> ビジネスマナー 営業実務 法令関連 顧客対応力向上 マーケティング 製品知識 営業マネジメント 	キャリア形成支援 <ul style="list-style-type: none"> キャリアデザイン研修 ライフプラン研修 自己申告制度 社内人材公募制度
新人 <ul style="list-style-type: none"> 新入社員フォロー研修 新入社員教育 		グローバル人材教育 <ul style="list-style-type: none"> Global Employee Exchange Program 異文化コミュニケーション

教育・訓練体系

地球環境保護の推進

アンリツは、環境に配慮した商品の開発と生産を追求し、グローバル環境経営を推進することで、地球環境保護に積極的に貢献します。



取締役 執行役員 環境総括
谷合 俊澄

ライフサイクル全体での環境負荷低減に向けて

当社はお客さまに提供する製品の「ライフサイクル全体での環境影響の低減」が重要と考えています。この考え方に基づきLCA(Life Cycle Assessment)を全製品に展開していくため、これまで蓄積してきたLCAデータと解析経験を下地に、製品のライフサイクルを通じた環境影響を簡易に算出できるツールを作成しました。今後は、このツールをグループ全体に展開し、真に価値ある環境配慮型製品の開発に努めてまいります。

また別の観点として、当社のグローバル全拠点を含むサプライチェーン全体での環境影響の改善も必要と考え、スコープ3と言われる間接的なCO₂排出量の削減にも努めていく予定です。

まだこれからの大きな課題ですが、まずはこの排出量を把握するところからスタートし、改善につなげてまいります。今後もアンリツグループの環境経営を推進し、皆さまの期待に応えてまいります。

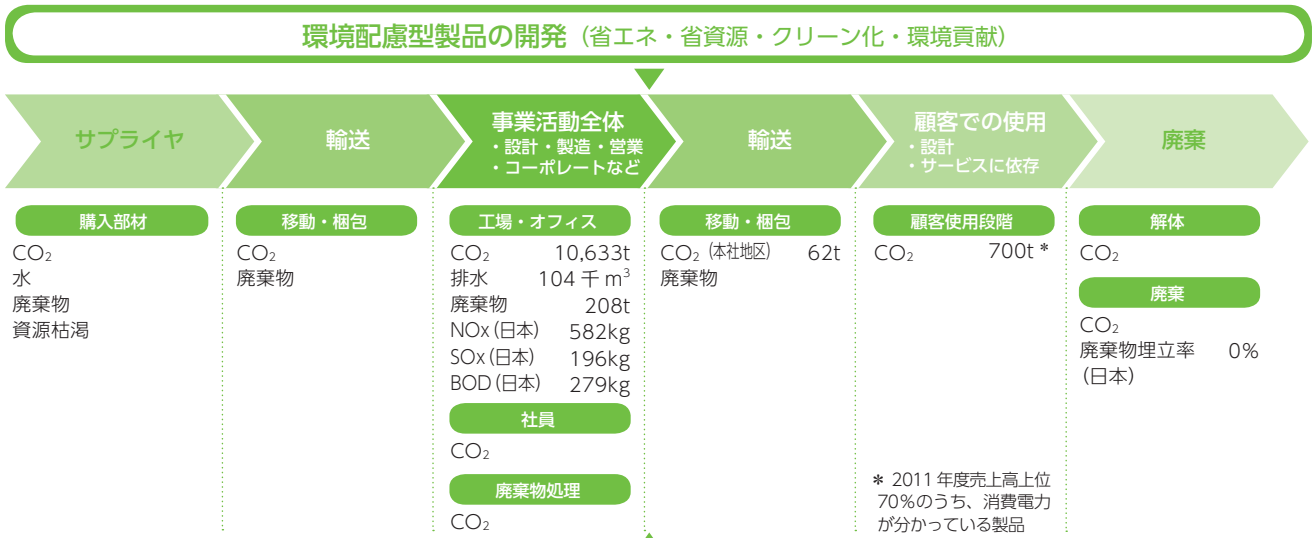
企業としてはグループ・グローバル全拠点を含む、また製品ではライフサイクル全体でのCO₂を始めとする環境影響の把握が必要です。



株式会社アイディアシップ 後藤 大介様

ライフサイクルシンキングによるグローバル環境経営

ライフサイクルシンキングによるグローバル環境経営を推進するアンリツグループでは、製品のライフサイクル全体を見据えた環境配慮型製品の開発とグローバル全拠点における環境影響の把握・改善という両面から環境負荷低減を目指しています。下図では、現時点で把握できている項目については数量を記載し（小数点以下は切り捨て）、把握できない項目については項目名のみ記載しています。



グローバル全拠点における環境影響把握と改善

エクセレントエコ製品の開発

MD8475A は、スマートフォンなどの携帯電話端末と基地局間のプロトコル検証や音声通話、パケットアクセスなどの機能検証を行う基地局シミュレータと呼ばれるテストです。世界中で展開されているすべてのセルラ通信システムに対応し、携帯端末のサービス・通信機能検証を 1 台で実現できます。これから開発が本格化する LTE 対応の複数セルラシステムを搭載したスマートフォンの検証が可能であり、「スマートフォンテスタ」として、世界各国の通信事業者、メーカーで利用されています。

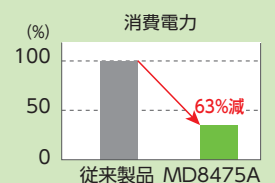
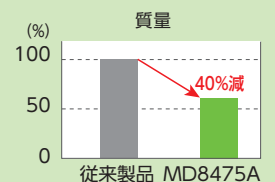
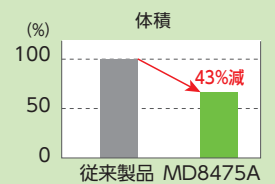
開発コンセプトとして、あらゆる通信システムの検証環境を小型・軽量・低消費電力で実現することを目指しました。排熱効率を維持しながら空間効率を向上させ、機構部品を削減し、ケースの板厚を最小化することで小型・軽量化を図りました。新設計のハードウェア部分では 32nm 微細プロセスのデバイスを採用するなど、デバイスレベルから低消費電力となる設計としました。



MD8475A シグナリングテスタ



アンリツ株式会社 マーケティング本部
 プロダクトマーケティング部
 プロジェクトチーム 2
 星野 真司



コミュニケーションの推進

アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、良好なパートナーシップを構築します。



執行役員 経営企画室長
川辺 哲雄

皆さまから信頼され続けるアンリツグループを目指して

アンリツはグローバルにステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを推進することを、重要課題の一つとして掲げています。2012年度は4月に発表したGLP2014のスタートの年になります。私たちはCSR活動に関する中期経営計画を検討して、2020年のビジョンを「ステークホルダーから信頼され続けるアンリツグループである」と描きました。

ステークホルダー、すなわちお客さま、株主・投資家の皆さま、取引先さま、各地域の皆さま、そして社員とのかかわりの中で、皆さまの声を聞き、お役にたてるよう活動し続けます。

今後もアンリツは社会の発展への貢献、環境への配慮、そして責任ある行動を取ることで皆さまから信頼される企業として、価値を生み続けていくことを目指します。

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

株主・投資家の皆さまのニーズに的確に応えるとともに、いただいたご意見を事業活動やIR活動の改善に役立てるために、双方向のコミュニケーションに努めながら積極的な情報開示を行っています。

国内のみならず海外でも投資家の皆さまとのコミュニケーションを深めるために、2011年度はシンガポール、香港で証券会社のカンファレンスに参加し14社と面談、アメリカ、イギリスでも25社の投資家の皆さまと面談しました。

お客さまとのコミュニケーション

アンリツグループ各社では、展示会やセミナーを実施し当社製品や最新の技術動向などをお客さまに分かりやすくご紹介しています。

バルセロナで開催された、世界のモバイル関連企業が一同に会するMobile World Congress 2012では、スマート

フォンのR&Dや製造を対象とした計測機器や、基地局の製造・保守設備、ネットワークなどインフラの構築機器、通信負荷状態などをリアルタイムにモニタリングするソリューションなどを紹介し、来場者の皆さまの高い関心を呼びました。

その他、ロサンゼルスで開催された「光通信展」、ラスベガスでの「無線通信機器・システム展」などの大規模な展示会にも計測ソリューションを出展するとともにパキスタンやタイではセミナーを開催し通信業界から多くの方々にご出席いただきました。

これらのセミナーではプレゼンテーションに加え、実際に製品を使用させていただくことで、お客さまとの深いコミュニケーションを図っています。



来場者でにぎわうアンリツブース

2011年度の実績と2012年度の目標


特に記載のある場合を除いて、対象はアンリツ(株)および国内グループ会社です。

評価 ……○:達成 △:達成率50%以上 ×:未達成

達成像	重要課題	2011年度実績	達成度	2012年度目標
【達成像1】 安全・安心で快適な 社会構築への貢献	お客さまへの サービス	①中国におけるCS推進活動のヒアリング、および中国各地マーケティングマネージャーのCS意識調査の実施	○	①CS行動指針の共有
		②計測製品のCS調査、および計測サービスの保守・サポートに関するお客さま満足度調査の実施	○	②社内外講師によるCS教育の実施 ③お問い合わせ窓口整備
【達成像2】 グローバル経済 社会との調和	サプライチェーン マネジメント	①グローバル調達への推進とKPI管理の実施	○	①グローバルSCM体制の構築
		②工場監査、計画18社中15社を実施 品質重点管理取引先監査を完了	○	②定期取引先監査の推進
	③主要取引先76社中66社のアンケート受領 CSR調達の同意書を440社中368社より回答受領	○	③CSR調達の推進 ④BCM*・ガバナンス体制の強化	
人権の尊重と 多様性の推進 人財育成	①グローバル人財育成に向けた中堅社員研修を上期・下期で各2回実施 若手社員向けの研修を導入検討中	②障がい者雇用率:単体2.25%、国内連結:1.56%	△	①外国籍社員採用の拡大、採用枠組みの確立
		③輪番休業と節電により職場環境の確保、BCPの見直し開始	○	②人財育成につながる評価制度の整備
			単体○ 国内連結×	③高齢者、障がい者の職種、職域開発 ④グローバルでのESサーベイの実施
【達成像3】 地球環境保護の 推進	環境経営の推進	①廃棄物の削減・リサイクル - 廃棄物発生量(国内):115.9t(目標:160.4t以下) - 埋め立て廃棄物の排出量を2011年度第4 四半期までに2010年度比で2%削減(USA*) (目標:5%削減)	○	①廃棄物の削減・リサイクル - 廃棄物の発生量、160.4t以下に維持(国内アンリツグループ)
		②省資源・省エネルギー - エネルギー使用量2006年度比 17.1% 削減(国内アンリツグループ) (目標:7.5% 削減)	×	- 埋め立て廃棄物の排出量を2010年度比5%削減(USA)
		- エネルギー使用量を2010年度比5%削減(USA) (目標:5% 削減)	○	②省資源・省エネルギー - エネルギー使用量(原油換算)2006年度比9.0%削減(国内アンリツグループ)
		③エコプロダクツ(国内アンリツグループ) - 対象製品4機種のすべてを環境配慮型として開発完了	○	- エネルギー使用量を2010年度比5%削減(USA)
		- 対象製品3機種中、2機種を省資源10%以上として開発完了 - 対象製品3機種のすべてを30%以上の省電力改善として開発完了	○	③エコプロダクツ(国内アンリツグループ) - 対象製品のすべてを環境配慮型製品にする - 対象製品のすべてを省資源10%以上の製品にする - 対象製品のすべてを消費電力改善率30%以上の製品にする
△	△			
○	○			
【達成像4】 コミュニケーション の推進	ステークホルダー とのコミュニ ケーション	・CSR報告2011(ウェブ)への導線を改善 ・CSR報告2011(ウェブ)の全ページをPDF化 ・ダイジェスト版(中国語)を発行	○	・ステークホルダーダイアログによるコミュニケーションの推進 ・各グローバル地域のCSR発信の実態調査

*USA: Anritsu Company(アメリカ)を表す。

*BCM: Business Continuity Management 事業継続マネジメント

 詳細データはウェブをご覧ください。
<http://www.anritsu.com/ja-JP/About-Anritsu/CSR/eva/index.aspx>

第三者意見

社長さまはじめ役員の方からアンリツのCSRについて説明を受けた際、印象に残った一言があります。「アンリツはグローバル市場でビジネス展開している企業であるから、CSRにおいてもグローバルに通用する内容でなければならない。」このような意識を明確にもたれているからこそ、国連グローバル・コンパクトに2006年の時点で参加するとともに自らの将来のあるべき姿を4つの達成像として設定、ベクトルを定めながら経営理念、経営ビジョン、経営方針で構成される基本原則を着実に実践するという、体系立てられたCSR実践を可能としているように思います。

そしてアンリツの、いわば生命の源泉はなんといってもイノベーションであり、今回発表されたGLP2014でもふれられている事業創発にあるのではないのでしょうか。それらの源泉とCSR行動がどのように絡みあってより高みへと向かっていくのか、楽しみにしています。飛躍的なデータ通信量増大を現実のものとしな

がらも安定した信頼性の高い通信網の構築、デジタルディバイドの解消、サプライチェーンのさまざまな場面で関所として機能する測る技術提供など、アンリツの事業領域は近年において重要性を増している社会的課題の側面に直結しているものであり、否応なく外部からの期待値はさらに大きなものになってくるように思います。

本年度は初めてダイアログを開催されました。今後のCSR中期経営計画の策定にあたり、ステークホルダーのさまざまな期待を経営に生かしていただければと思います。



株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役 福島 隆史



第三者意見を受けて

2011年度のCSR活動および事業活動とCSRの関連を記述した報告に対して評価をいただき、誠にありがとうございました。ご指摘いただいた社会の要請に応える事業活動をイノベーションを通して実現するとともに、CSR行動を絡ませ推進していきます。

今回の報告では、中期経営計画および2020年の経営ビジョンで示された事業活動と連動したCSR活動の推進をご紹介しました。また、有識者によるダイアログを開催し、社会からの要請と当社

が目指すCSR経営に関するアドバイスをいただきました。これからもアンリツが目指すCSR、本業を通して社会の要請に応じていく活動に生かします。

今後もステークホルダーの皆さまからのご意見などを真摯に受け止め、CSR活動を推進していきます。

アンリツ株式会社
コーポレートコミュニケーション部 CSR推進チーム

Anritsu

Discover What's Possible™

アンリツ株式会社

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名 5-1-1

TEL: 046-223-1111

<http://www.anritsu.com>